

Aiming for Greater Heights

さらなる高みを目指して

合併 30 周年記念誌

本荘由利森林組合



30年を迎えて

本荘由利森林組合

代表理事組合長 小 松 佳 和

平成7年3月に、本荘由利森林組合が誕生し30周年を迎えることができました。この間の組合員の皆様のご理解、ご支援をはじめ、組合経営や事業の推進に携わってられました先人の方々のご苦労はもとより、平素よりご支援、ご指導を賜っております関係の行政機関や団体の皆様方に対し、心から感謝と御礼を申し上げます。

この30年を顧みますと、国内においては、林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を目指す森林経営管理制度や森林環境税・森林環境譲与税が創設されたことや、コロナ禍の影響によって木材価格が高騰したウッドショック、また、カーボンニュートラルの実現に向けた循環型林業の普及や木質バイオマス発電所の増設、さらには、国産材の供給増に伴い木材自給率が急速に上昇するなど、この30年間は正に戦後日本の大転換期と言っても過言ではないと思っております。

一方、県内では、東北最大級の規模を誇る大型製材工場や木質バイオマス発電所が相次ぎ稼働し、本年1月からは国内製材最大手の中国木材(株)が能代市で本格的な事業を開始したことなどから、原木の新たな安定供給ルートの確立や需要と価格の安定化などへの期待が一層高まってきております。また、行政と業界が一丸となって再造林対策に取り組んでいることから、今後、木材利用と再造林による資源の循環利用と林業・木材産業の成長産業化が一層進展するものと考えております。

このように、林業・木材産業情勢の変貌する環境の中ではありますが、県下一のスギ人工林資源を活動基盤とする本荘由利森林組合は、未利用材の有効活用を図るバイオマス事業や森林資源の循環利用に不可欠な再造林事業を中枢に、将来に向け安定的な事業量が確保できるよう、地域林業の中核的担い手として、計画的・効率的な事業運営に努めていくとともに、組合員の皆様や地域の方々とのより強固な信頼関係の構築に努め、存在意義を高く評価していただけるよう、役職員一丸となって、鋭意努力して参る所存でございます。

30周年というこの記念すべき年を迎えたことを一つの転換期と捉え、組合経営や事業推進上の諸課題を克服し、新たな歴史を築いていかなければならないと考えておりますので、今後とも組合員の皆様をはじめ関係する行政機関や団体の皆様方の更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

Contents

◆ 30年を迎えて

本荘由利森林組合代表理事組合長 小 松 佳 和

◆ 飛躍・貢献・栄光の軌跡

未利用材の有効活用で付加価値向上を実現させたバイオマス事業	1
森林資源の循環利用と安定的な事業量確保を持続する再造林事業	2
良質な森林資源の維持造成に貢献する造林コンクール	3
地域の林業啓発イベントとして定着した森林組合まつり	4
全国にその名を知らしめた本荘由利森林組合ポート部	5

◆ 30年の歩み そしてさらなる挑戦

6～7

◆ 盤石な事業活動

8

◆ 現在の役員

9



飛躍 *leap*

貢献 *contribution*

栄光 *glory*

の軌跡 *of locus,s*

本荘由利森林組合は、先人たちが幾多の試練を乗り越え築き上げてきた、
豊かでかけがえのない森林資源を決して絶やすことなく、先見の明をもって
常に活かす事業活動を積極的に展開していくとともに、自慢のスポーツで
培った類い稀なチーム力を機動力に加え、地域に愛され信頼される森林
組合としてこれからも力強く歩んで参ります。





未利用材の有効活用で
付加価値向上を実現させた

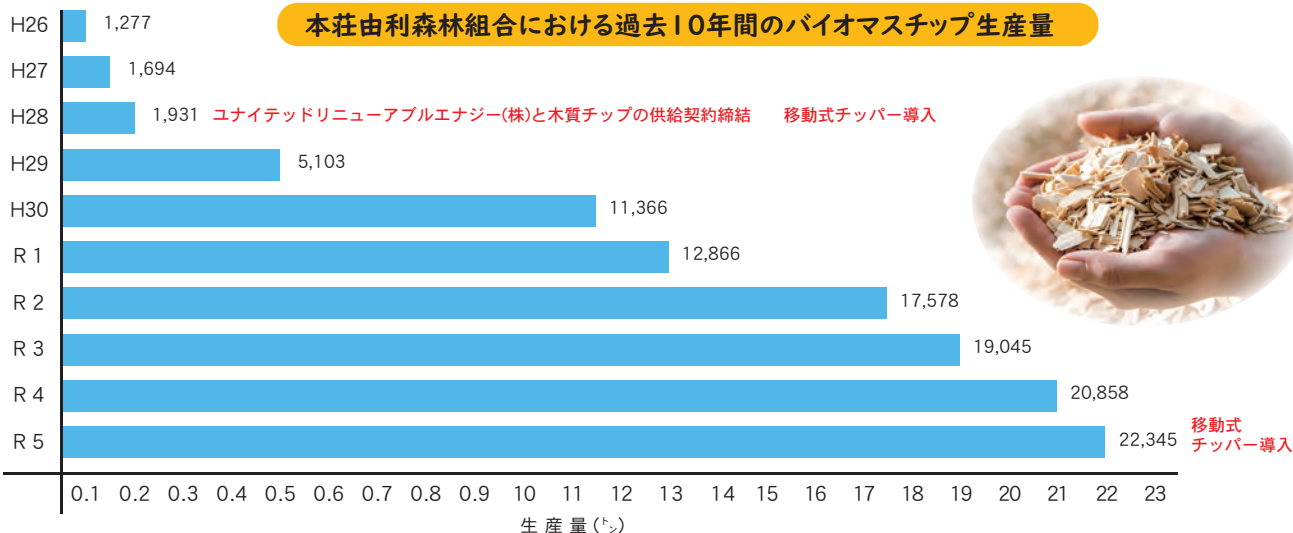
バイオマス事業

本荘由利森林組合では、かつて山に大量に放置されていた林地残材や間伐材等の未利用材の有効活用を図るため、木質バイオマス発電の燃料用木質チップの生産に積極的に取り組んでいる。

主な供給先であるユナイテッドリニューアブルエナジー(株)とは、平成28年8月に木質チップの供給契約(20年間)を締結。以降、木質チップの供給量は年々増加し、バイオマス事業は、当組合経営の重要なカテゴリーとなっている。

今後とも、発電施設の建設動向を注視しつつ、木質チップの生産に積極的に取り組んでいく。

供給増を見据えた
木質チップ用原木の
ストックヤード



供給を支えている移動式チップパー



平成28年度導入
(オーストリア製)
●チップ生産能力
最大 100m³/h



令和5年度導入
(オーストリア製)
●チップ生産能力
最大 130m³/h

秋田の森から新しいエネルギー 木質バイオマス発電

秋田県は、平成23年5月に秋田県新エネルギー産業戦略、平成28年3月に第2期秋田県新エネルギー産業戦略を策定し、再生可能エネルギーの導入拡大及び関連産業の振興等に向けた取組みを実施している。

平成28年7月から稼働を開始した発電出力が20MWと東北最大級の規模を誇るユナイテッドリニューアブルエナジー(株)向浜発電所は、秋田県産の未利用材を主な燃料として使用し、地域の林業と連携した新しいエネルギーを生み出している。さらに、地域経済にも貢献し、地元業者との協力により雇用創出にも寄与している。





森林資源の循環利用と 安定的な事業量確保を持続する

再造林事業

本荘由利森林組合は、皆伐再造林の推進に積極的に取り組んでいる。

再造林面積は、平成30年度以降増加の一途にあり、令和4年度以降は100haを超え、県全体の18%のシェアを占めている。これは、県内の森林組合系統を含めた林業事業体の中でも突出した実績で、本県の再造林の推進に大きく貢献している。

今後とも、森林資源の安定的な維持造成を図り、計画的な森林経営が可能となるよう、再造林事業に積極的に取り組んでいく。

本荘由利森林組合独自の取り組み

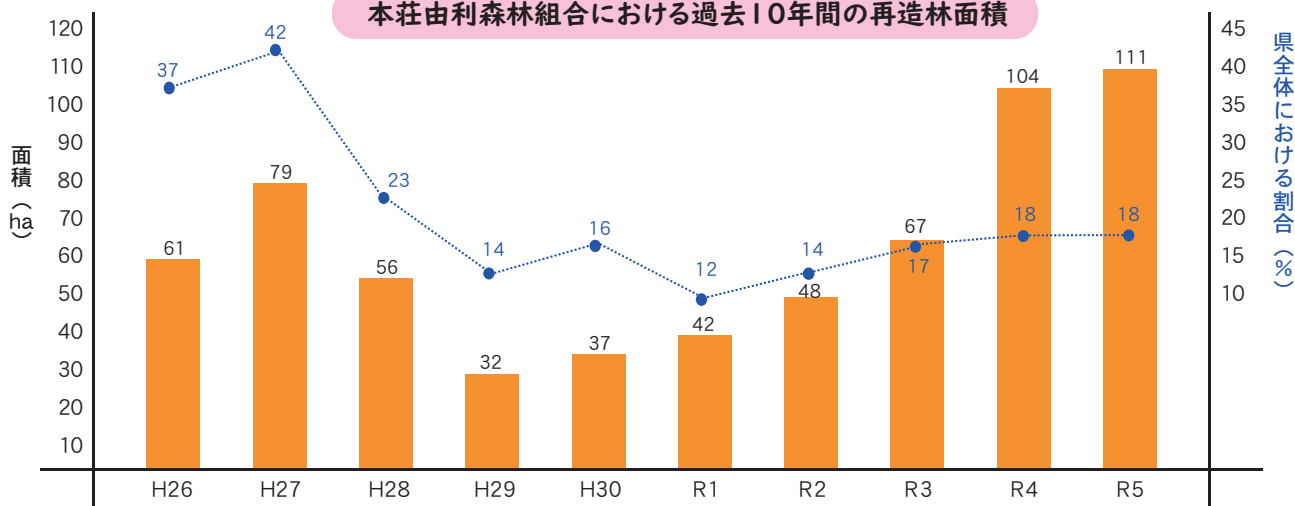
利益を生みだす山づくりに向けたコスト軽減

ICT（情報通信）の活用や、皆伐後の枝条等処理の機械化などで造林費用の軽減を図っているほか、将来の間伐費用を軽減するため、植栽本数の低密度化等を進めている。

再造林助成金を創設し森林所有者を後押し

再造林後の下刈等の保育管理に要する資金的な不安を解消するため、令和4年度から、組合員に対し、植栽後50,000円/haを助成し、事業量の安定確保につなげている。

本荘由利森林組合における過去10年間の再造林面積



令和3年11月6日(金)、秋田市で開催された第64回秋田県森林組合大会で、本荘由利森林組合が再造林推進優秀組合として秋田県知事賞を初受賞した。同賞は、この年に創設された。



令和4年7月26日(火)、秋田市で開催された再造林推進総決起大会で事例発表する本間康太主任と京野祥歩主任。

官民一体による再造林推進対策

秋田県では、令和4年度から森林資源の循環利用とカーボンニュートラルの実現に貢献する再造林を推進するため、森林所有者へ再造林などへの実施をアプローチするあきた造林マイスターの育成や林業事業体への造林地の集積、再造林とその後の保育管理を一括的に推進する事業を開始した。

業界では、林業・木材関連及び一般企業・団体などからの寄付を中心として構成された再造林基金を運用する秋田県再造林推進協議会（小松佳和会長＝秋田県森林組合連合会代表理事会長）を立ち上げ、双方が一体となった秋田独自の対策を推進している。



令和4年7月26日(火)、秋田市で開催された再造林推進総決起大会

秋田県の民有林人工林の約9割を占めるスギ人工林は、昭和44年から50年まで、年間1万ha造林運動が実施されたことなどにより、面積、蓄積とも全国一である。市町村では、由利本荘市が面積、蓄積ともトップで、その多くが成熟期を迎えている。

本荘由利森林組合は、県内屈指のスギ人工林資源を活動基盤に、安定的な事業量の確保と収益性の高い事業活動を展開している。

民有林スギ人工林面積

秋田県全体 237千ha

[市町村ランキング上位]

第1位 由利本荘市 39千ha

第2位 北秋田市 22千ha

第3位 秋田市 19千ha

民有林スギ人工林蓄積

秋田県全体 9千万m³

[市町村ランキング上位]

第1位 由利本荘市 17百万m³

第2位 北秋田市 8百万m³

第3位 秋田市 7百万m³

将来にわたって良質で付加価値の高い森林を造成していく上でも、森林資源の適正な管理と木材の効率的活用を競う造林コンクールを継続して開催している意義は深い。

本コンクールは、今年で30回目の節目を迎えるが合併前の由利地方森林組合連絡会が昭和29年に開催した第1回から通算すると71回目となる権威あるコンクールでもある。

県内の森林組合系統では唯一の取り組みであり、出品林分のレベルも年々向上している。



参加部門

- 幼齡林 7～9年生
- 枝打ち 11～30年生
- 保育間伐 21年生以上
- 収穫間伐 21年生以上
- 育成天然林 25年生以上

良質な森林資源の維持造成に貢献する

造林コンクール

表彰種別

- 最優秀賞(由利地域振興局長賞)
- 優秀賞(由利森林管理署長賞)
- 優良賞(県森連会長賞)
- 入賞(森林組合長賞)
- 奨励賞(森林組合長賞)

審査から表彰までのプロセス

1 現地審査

由利地域振興局農林部森づくり推進課が厳正な審査を行っている。



H30.11 (幼齡林の部)



R1.11 (枝打ちの部)



R5.11 (収穫間伐の部)

2 審査講評



審査結果を講評する藤田昇森づくり推進課長
第24回表彰授与式 (H31.2.22)



審査結果を講評する佐々木紀之森づくり推進課長
第29回表彰授与式 (R6.2.16)

3 表 彰



菅生淑子由利地域振興局長より
由利地域振興局長賞を受賞する須藤辰義氏
第29回表彰授与式 (R6.2.16)

講 演 会

組合員の森林づくりへの意欲喚起のため、毎回、各界で活躍する著名人を招き、講演会を行っている。



林材ライターの赤堀楠雄氏
第22回表彰授与式 (H29.2.15)

本荘由利森林組合は、地域住民に対し、森林や林業の役割や魅力を知ってもらうため、平成18年から毎年10月に森林組合まつりを開催している。途中、コロナ禍で中断を余儀なくされた年もあったが、今年で第16回目を迎え、地域の年中行事のひとつに定着した。

当日は、森林組合が培った技術的ノウハウの発信や家族のコミュニケーション醸成を目的とした様々なブースを出展し、毎年、子供から大人まで、老若男女問わず多くの地域住民で賑わっている。

森林組合まつりは、単なるイベントではなく地域の中核的担い手としての評価を高め、地域から愛される法人としての地位を確固たるものにしたソフト戦略でもある。

今後とも、地域に親しまれる森林組合まつりとなるよう、職員が総力を挙げて対応していくこととしている。



実になる



地域の林業啓発イベントとして定着した

森林組合まつり

多彩な催し



経営サポート



H28.10.16 (GPS・GIS実演)



H29.10.22 (GPS・GIS実演)



H30.10.22 (林業相談)



R1.10.20 (林業相談)

体験・実験



H29.10.22 (高所作業車)



H30.10.22 (丸太積み)



R1.10.20 (丸太切り)



R1.10.20 (ウッドバーニング)

製品販売



H30.10.22



R1.10.20

サプライズ



H28.10.16 (大抽選会)



R1.10.20 (大抽選会)

この他にも、趣向を凝らした様々なブースを出展している



本荘由利森林組合男子ボート部は創部以来、子吉川レガッタは元より、全国市町村交流レガッタで優勝するなど、これまで輝かしい成果を収めている。また、女子部の健闘も目を見張るものがある。本年、鹿児島県で開催された全国市町村交流レガッタでは、ゴール前のデットヒートで惜しくも優勝を逃した悔しい経験から、来年こそはと今から雪辱に燃えている。

再造林事業やバイオマス事業などで目覚ましい事業活動を展開し多忙極める中、スポーツ分野でも類い稀な才能を発揮している。仕事とスポーツを両立させている森林組合は全国的にも希少で、当森林組合ボート部の活躍は、全国における本県森林組合系統の知名度アップにもつながっている。

栄光の軌跡

全国市町村交流レガッタ

	成年男子	壮年男子	成年女子
H23(第20回)	準優勝		
H24(第21回)	優勝		
H25(第22回)	3 位	優勝	
H27(第24回)		3 位	
H28(第25回)		準優勝	
R 1(第28回)		3 位	
R 5(第32回)			準優勝
R 6(第33回)		3 位	準優勝

子吉川レガッタ(市民ボート大会)

	成年男子	壮年男子	成年女子
H19(第28回)	準優勝		
H20(第29回)	準優勝		
H21(第30回)	優勝		
H22(第31回)	優勝		
H23(第32回)	優勝	優勝	
H24(第33回)	優勝	優勝	
H25(第34回)	優勝	優勝	
H26(第35回)	優勝	優勝	
H27(第36回)	準優勝	優勝	
H28(第37回)	準優勝	優勝	
H29(第38回)	優勝	準優勝	
H30(第39回)		優勝	優勝
R 1(第40回)	準優勝	優勝	優勝
R 4(第43回)	優勝	準優勝	優勝
R 5(第44回)	3 位	優勝	優勝
R 6(第45回)	4 位	優勝	



第33回全国市町村交流レガッタ薩摩川内大会で
準優勝と大健闘した女子部
優勝チームとは僅か0.4秒差(R6.9.8)



第33回全国市町村交流レガッタ薩摩川内大会で
ダブル入賞を果たし喜ぶ選手たち(R6.9.8)



history of the 30 never stop challenging の歩み そして さらなる挑戦

平成7年
3月31日

由利本荘市内の7組合（本荘市、矢島町、岩城町、由利町、鳥海町、東由利町、大内町）と仁賀保森林組合の合併により本荘由利森林組合が誕生。

理事72名・監事21名の執行体制でスタート。

組合長：田口荘一郎 副組合長：佐々木善宗 佐藤久弥

常任理事：吉尾満 小松文一 赤石與之助 堀川悌二 佐藤恵

代表監事：保科正一郎

組合員数：6,171人 加入面積：38,304ha 出資金額：434,263千円

平成8年 1月

高性能林業機械導入 フォワーダ 1台

グラップル付パワーショベル導入 1台

セルフローダー式大型トラック導入 1台

2月

第1回造林コンクール表彰授与式開催

3月

役員選挙 役員30名を選出 田口荘一郎が組合長に再任

高性能林業機械導入 ハーベスタ 1台

剥皮機導入 1台

10月

技能職員用休憩施設竣工 本所敷地構内

親子木工教室開催

平成9年 1月

本荘由利森林組合林業研究会発足

4月

平成8年度林業労働力育成確保優良事業で本荘由利森林組合が林野庁長官賞

林業相談日開設

平成10年 10月

西目製材工場竣工

平成11年 3月

役員選挙 役員30名を選出 佐藤恵が組合長に就任(第2代)

5月

第51回全県植樹祭 東由利町・八塩いこいの森

9月

木材流通センター竣工

平成12年 4月

緊急間伐5ヶ年対策がスタート

平成13年 9月

ホームページ開設

平成14年 3月

役員選挙 役員30名を選出 佐藤健一が組合長に就任(第3代)

4月

森林整備地域活動支援交付金制度がスタート

8月

円柱加工機導入 1式

平成16年 6月

第1回東証上場の森植樹祭 矢島町城内花立地内

平成17年

3月31日

合併設立10年時の運営状況

組合員数：5,909人 加入面積：52,122ha 出資金額：406,648千円

3月

役員選挙 役員23名を選出 小松佳和が組合長に就任(第4代)

7月

長期施業委託事業実施規程設定

10月

森林GIS(地域森林管理システム)・GPS(全地球測位システム)導入

平成18年 9月

にかほ市象潟で本県初のナラ枯れ被害確認

10月

第1回森林組合まつり開催

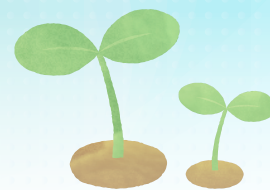
12月

高性能林業機械導入 プロセッサ 1台 フォワーダ 1台

グラップルローダ導入 1台



平成20年	3月	役員選挙 役員23名を選出 小松佳和が組合長に再任(2期目)
平成21年	4月	相互安全衛生事業(たんぼぼプラン)実施
	6月	グラップル付バックホー導入 2台
	11月	第48回全国農林水産祭で板垣憲一氏が農林水産大臣賞
	12月	農林水産省が「森林・林業再生プラン」を策定
平成22年	8月	高校生のインターンシップ実施
	10月	グラップル付バックホー導入 1台
平成23年	3月	役員選挙 役員23名を選出 小松佳和が組合長に再任(3期目)
	4月	森林環境保全直接支援事業がスタート
	9月	全国市町村交流レガッタ大会成年男子の部で本荘由利森林組合が準優勝
	10月	秋田県重点分野プロジェクト事業参画 木質飼料ペレット製造
	12月	木材乾燥貯蔵施設竣工
平成24年	4月	森林経営計画制度がスタート
	12月	高性能林業機械導入 ハーベスタ 1台 プロセッサ 1台 製材加工設備導入 木材乾燥機 2基 グレーディングマシン 1台 モルダー 1台
平成25年	9月	全国市町村交流レガッタ大会壮年の部で本荘由利森林組合が優勝
	10月	脱少子化ウエーブを巻き起こす行動県民会議・若者の県内定着の部で 本荘由利森林組合が知事賞
平成26年	3月	役員選挙 役員23名を選出 小松佳和が組合長に再任(4期目)
		平成25年度事業総収益が過去最高
	7月	組合設立20周年記念式典開催
	10月	製材加工設備導入 ノーマンツインバンドソー 1式 木材乾燥機 2基 ホイールローダ 1台 フォークリフト 1台 チップヤード 1棟
	12月	高性能林業機械導入 フォワーダ 2台
平成27年		合併設立20年時の運営状況
3月31日		組合員数：5,588人 加入面積：52,540ha 出資金額：394,920千円
平成28年	1月	グラップル付トラック導入 1台
	12月	木質チップ製造設備導入 移動式チップパー 1台 アームロールトラック 1台 脱臭コンテナ 8台 セバレートスケール 8台 P C 診断ツール 1式
		高性能林業機械導入 ハーベスタ 1台 フェラバンチャザウルスロボ 1台
平成29年	3月	役員選挙 役員23名を選出 小松佳和が組合長に再任(5期目)
平成31年	4月	森林経営管理法施行 森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律施行
令和2年	3月	役員選挙 役員23名を選出 小松佳和が組合長に再任(6期目)
令和3年	10月	高性能林業機械導入 ハーベスタ 1台
令和4年	2月	高性能林業機械導入 フォワーダ 1台
令和5年	3月	役員選挙 役員23名を選出 小松佳和が組合長に再任(7期目)
	5月	木質チップ製造設備導入 移動式チップパー 1台
	9月	完全週休二日制導入
令和6年	5月	通常総代会で総代の定数削減を決議
	6月	小松佳和組合長が秋田県森林組合連合会会長に就任
	7月	2024あきた水と緑の森林祭 南由利原高原青少年旅行村ほか



盤石な事業活動

平成26年の合併設立20周年以降の事業活動は、経営の指標となる事業総利益（収益－費用）が毎年3～4億円台を維持し、健全な経営基盤を堅持している。

販売事業（林産・販売、共販、請負林産）では、原木流通を取り巻く情勢が変遷する中、生産コストの縮減や新規事業開拓に積極的に取り組んでいることから、事業量の安定確保が図られ、収益が毎年10億円前後と高水準を維持している。

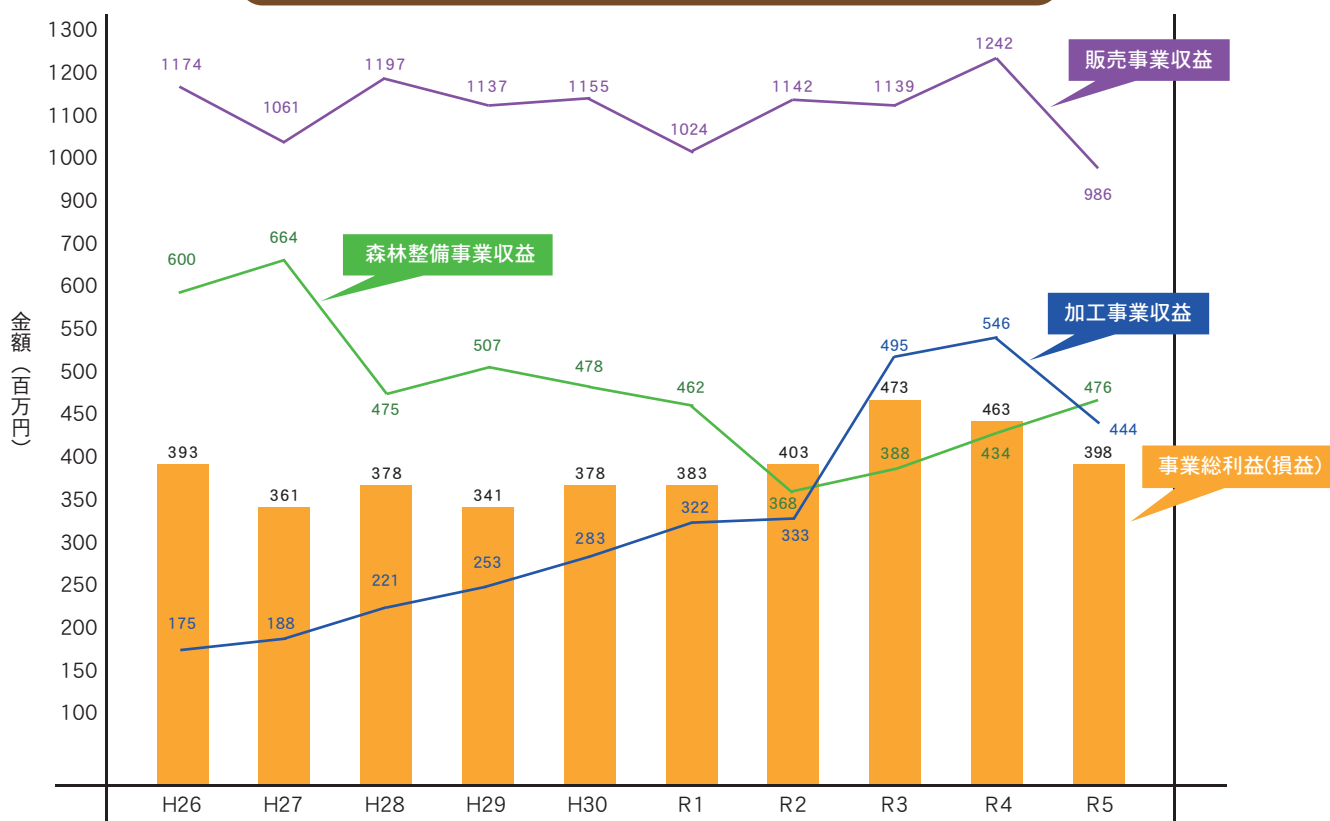
また、森林整備事業では、各種補助事業を積極的に活用した事業を展開し、中でも再造林については、森林所有者向けの独自の支援対策を創設したことが功を奏し、ここ数年は収益が上昇傾向となっており、5億円台に迫る勢いとなっている。

さらに、加工事業では、製品市況が全国的に停滞する中、当森林組合では林地残材や低質材等の未利用資源の有効活用に着目し、木質バイオマス発電の燃料用木質チップの生産に意欲的に取り組んだことから、現在では、加工事業を牽引する重要な部門にまで成長した。

今後とも、さらなる高みを目指して、木材需給動向を注視しつつ、低コストで収益性の高い事業活動を展開していく。



本荘由利森林組合における過去10年間の事業活動



現在の役員

代表理事組合長 小松 佳和

副組合長理事 佐々木法夫

副組合長理事 鈴木 充

理事 佐藤 健一

伊藤 修二

三浦 功

佐藤 勉

武田 清光

代表監事 佐藤 憲一

監事 村上佐左衛門

齋藤惣一郎

鈴木 敏規

佐藤 衛

小笠原俊彦

加藤 進

小番 勲

小松 幸夫

板垣 正昭

田口 基

熊谷 典夫

佐藤 勝榮

浅田 照信

今野 廣一



齋藤惣一郎

鈴木敏規

今野廣一 小笠原俊彦 田口基 武田清光 村上佐左衛門 加藤進
浅田照信 佐藤衛 佐藤勝榮 伊藤修二 小松幸夫 三浦功 板垣正昭 佐藤勉
小番勲 佐藤憲一 鈴木充 小松佳和 佐々木法夫 佐藤健一 熊谷典夫



本荘由利森林組合 合併30周年記念誌

編集・発行／本荘由利森林組合
〒015-0885 秋田県由利本荘市水林381番地
TEL.0184-24-4141 FAX.0184-24-4143
<http://www.honmori.com/>

令和6年11月発行